

9月20日(月)

私 は 無 実 で す !

聖書朗読 詩篇 3篇

まして神は、夜昼神を呼び求めている選民のためにさばきをつけないで、いつまでもそのことを放っておかれることがあるでしょうか。 ルカ 18 : 7

2021年9月20日～9月26日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

サスペンス映画でよくあるパターンは、次のような筋書きではないでしょうか。すなわち、誰かが犯人として疑われるのですが、真犯人は別に居るのです。そしてその真犯人は、なんと政府関係者や警察官だったりするのです。「まさか、そんなことがあって良いのか！」と、映画を観る人々は（フィクションだと分かっている）興奮します。現実には、私たちがそのような事件に巻き込まれることは稀ですが、それでも「こんなことがあっても良いのか！」と思わず言ってしまうような経験をすることはあります。例えば「友人から理不尽な扱いを受ける」等です。理不尽な扱いは、私たちをひどく落ち込ませることもあります。

本日の聖書朗読箇所では、ダビデも理不尽な扱いを受けました。サウルは軍隊を伴ってダビデを追跡し、殺害しようとしていました。しかし、それはサウルの間違った理解に基づく行動でした。ダビデは犯罪者扱いされ、仕方なく逃亡していたのです。そんな時、ダビデは、神様へ心の目を注ぎ、神に助けを求めました。

主イエスは、私たちに次のように教えておられます。神に心の目を注ぎ、神が備えて下さる道を歩みなさい、と。そして私たちがそうするとき、神様は私たちの必要をすべて備えて下さるのです。万事を益として私たちに導いて下さる神がおられることを私たちが心刻む時、私たちに平安が与えられるのです。イエス様に目を向け、神様を待ち望みましょう。

霊的に優れた生活の醍醐味は、人生がいつも順調に進むということではなく、困難な時でも、神への信頼によって豊かに平安が与えられることである

—A.W.ソロルド

讃美歌 525

祈り 親愛なる神様、いつもあなたに目を向けられますように。苦しい時にこそあなたに信頼を寄せることが出来ますように。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ナンシー・ベイカー
テキサス州アビリン

9月21日(火)

安らかな夕べのために

聖書朗読 詩篇 4篇

このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。

ルカ 6：12

薬局に行くと、睡眠を補助するための薬が驚くほどたくさん置かれています。しばしば、脳が(日常生活の中で)刺激を受け過ぎることにより、私たちは眠ることが出来なくなってしまいます。また心配事などにより、十分に眠ることが出来なくなってしまうこともあります。

イエス様も、夜眠らずに起きていらっしゃることがありました。しかし、イエス様の場合は、過剰な刺激や心配で眠れなくなってしまったのではなく、天の父なる神様と(祈りを通して)対話するために起きておられたのです。ゲツセマネで苦しい夜を眠らずに過ごされたのも、祈りのためでした。私たちは、夜遅くに起きている際、祈りをどれだけ大切にしているのでしょうか？

一方でイエス様は、「誰もこのような状況では眠ることは出来ない」というような状況で眠りに就いておられることもありました。例えば、嵐の湖上で舟に乗っておられた時のことです。弟子たちは平然と寝ておられるイエス様を見て、とても驚きました。嵐を静められた後、「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことですか」と主は弟子たちにおっしゃいました(マルコ4:40)。私は、何らかの心配事で寝付けぬ時、このマルコ4:40が励ましになっています。なぜなら、その聖句は、私に「信仰」の大切さを思い出させてくれるからです。信仰によって、神様がすべてをご支配なさっていること、そして、神様にはすべてが可能であることを知り、私は安心することが出来ます。そして、次のように心から感じる事が出来るようになるのです。すなわち、「平安のうちに私は身を横たえ、すぐ、眠りにつきます。主よ。あなただけが、私を安らかに住まわせてくださいます」(詩篇4:8)。

讃美歌 295

祈り 親愛なる神様、不安で眠れない時であっても、あなたが共にいて下さることを感謝いたします。あなたからの平安を頂くことが出来るよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

リサ・ラングフォード
テキサス州ラボック

9月22日(水)

誠実なる神様

聖書朗読 詩篇 5篇

すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りをつくし、また祈りなさい。
エペソ 6：18

詩篇5篇では、ダビデの心を注ぎ出す祈りが書かれており、その祈りには、神に対する全幅の信頼が表れています(2節)。ダビデは、自分自身と(神を愛する)人々のために心から祈っています。ダビデは、神が悪をお喜びにならないことをよく知っており(4節)、また(自分自身ではなく)神に拠り頼むことの大切さを知っていました(8節)。そして、悪を求める思いと神の思いは根本的に相反する思いであることも知っていました(9-10節)。ダビデは、祈りを次のように締めくくります。神は、私たちをかばってください、守ってください、と(11節)。こうしてダビデは、神に信頼し拠り頼むことの大切さ(それは詩篇全体のテーマとも言えます)を、祈りの中で表現しています。

私たちも、ダビデと同じように神様にこそ全幅の信頼を置きたいものです。私たち自身は弱くても、神様は大いなるお方であり、私たちを守り導いてくださいます。橋を渡る際、私たちが安全に橋を渡ることが出来るかどうかは、私たち自身の強さにあるのではなく、橋の強さ(強度)にかかっています。同様に、私たちは弱くても、強い橋のようなお方である神様に信頼を置き、私たちは(人生における渡らなくてはならない川を渡って)前進できるのです。

讃美歌 520

祈り 親愛なる神様、あなたへの信仰心をより確かなものとし、あなたとの関係がより深められますようお導き下さい。いつも私たちを守って下さることに感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジェリー&リン・ジョーンズ
ミズーリ州セントチャールズ

9月23日（木）

確かな道

聖書朗読 詩篇 9：1～10

義人は自分の道を保ち、手のきよい人は力を増し加える。 ヨブ 17：9

ある日、私がカフェでコーヒーを楽しんでいたところ、カフェの向かい側に 1957年式の赤いシボレー（クラシックカー）が停まっていることに気がきました。そして私は、そのクラシックカーの所有者と少しおしゃべりすることが出来ました。彼は、いかに注意深くその車を修理しているかについて語ってくれて、その話はとても興味深かったです。私が「すごいですねえ」と褒めましたところ、彼は「試行錯誤の連続ですよ」と言っていました。上手に行くかどうかわからないけれども、とにかく修理してみるのだそうです。

神様は、そのみこころを全ての人に知って欲しいと望んでおられます。そして、神様のみこころ（神様の教えやご計画）は、「試行錯誤」的な（頼ることが出来ない）ものでは決してありません。申命記6:4～6では、律法の核心的部分について書かれています。あらゆる機会を用いてその律法を子どもたちに教えるよう命じています。しかし、人々は律法そして神の御心を軽んじました（ローマ1章）。ですから、パウロは言うのです——教会のリーダーたちは、神のみことばを伝え、人々を教え、人々が霊的に成長できるよう導く必要があるのです、と。パウロは、人々が神様のみことばから離れてしまい、間違った道をたどってしまうことを心配したのです。みことばは、人々を霊的に成長させて、キリストに似る者へと私たちが変えられていく上で、とても大切なのです。

私たちは、神様とのみことばに全幅の信頼を置くことが出来ます。なぜならば、神様とのみことばは、「試行錯誤」の修理のような、（いわば）当てにならないものではないからです。私はそう信じていますので、孫たちにもいつも次のように言うのです。「賢くあれ、神様のみことばに聞き、それに従いなさい」と。

讃美歌 501

祈り 天なる父よ、私たちがあなたに留まり、みこころに従えるようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ラリー・ケイン

テキサス州ハイランドヴィレッジ

9月24日（金）

神の義を愛する

聖書朗読 詩篇 11篇

主は、その聖座が宮にあり、主は、その王座が天にある。その目は見通し、そのまぶたは、人の子らを調べる。 詩篇 11：4

「こんなのフェアじゃない！」私たちが子どもの頃からよく言う台詞ではないでしょうか？ 人々が私たちに対し公平に接しない時、傷つきますし、怒りを感じるでしょう。

しかし、世界に目を向けますと、不公平は（私たちの日常生活だけでなく）世界の至る所に存在します。経済格差等により、多くの貧しい人々が苦しみ、飢えています。偏見も存在します。そして、これらの不公平は一向に解消されないようにも見えます。「抛り所が壊されたら正しい者に何が出来るだろうか」（詩篇 11:3）という詩篇 11 篇の作者の言葉と重なります。

しかし、クリスチャンはそのような不公平に満ちた世界の中においても希望を持ち続けることが出来ます。それは、「神様はすべてを御手に治めておられ、神様が正義を行われる時が来るという」確信を持つことによる希望です。

私が住む町で、フーバーさんというご夫妻の息子さん（成人）が殺害されるという悲劇が起きました。何歳であろうと子供を失うのは大変つらい事で、それが暴力によるものであったらなお、つらいことでしょう。フーバーさんご夫妻は、深い悲しみの中に置かれました。しかしそれにも関わらず、夫妻は、息子を殺した犯人に対して復讐するのではなく、犯人に対し友好的な手を差し伸べました。裁判所で犯人に語り掛けたり、刑務所を訪問して犯人に（友好的に）接しました。なぜでしょうか？ フーバー夫妻は、「神様が義と愛のお方である」と知っていたからです。そして、それを信仰生活で実践したのです。

「神への信頼」とは、単に受け身でいることや無関心でいるのではなく、（神の）義と愛を追求し、実践することです。つまり、「義を愛する神様」が私たちと共におられることを確信しつつ、私たちも（神の）義と愛を証していくことなのです。

讃美歌 262

祈り 神様、あなたの正義と愛をこの世に与えて下さい。主よ、来たりませ。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ゲリー・ハロウェイ

テネシー州ナッシュビル

9月25日(土)

祈りの答え

聖書朗読 詩篇 25:1~12

主よ。私のたましいは、あなたを仰いでいます。わが神。私は、あなたに信頼いたします。どうか私が恥を見ないようにしてください。私の敵が私に勝ち誇らないようにしてください。 詩篇 25:1~2

「祈りが答えられなかった」ということは、本当に有り得るのでしょうか。私たちの多くは、「何かについて祈った。しかし、自分が望んでいたような結果にはならなかった」というような経験を持っていると思います。私の個人的な「答えられなかった(ように見える)祈り」を振り返りますと、確かに私の「願い」は叶えられませんでした。しかし、「神様の恵みと導きに対する信頼」が私には与えられました。そして、最終的には、私の地上的な知恵ではなく、神様へ自分自身をおゆだねる姿勢が与えられました。これが、「私の祈りに対する答え」だったように思います。

私の主人は、生前、「御国に行った時に(御心を)理解できるかもしれないが、しかし、この地上では難しいかもしれない」と言ったことがありました。箴言3:5には「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな」と記されています。時に、(祈りに対する答えも含めて)神様の恵みは、私たちの期待と大きく異なる形で与えられることがあります。「あの人には恵みが与えられているが、私には与えられていない。不公平だ」と感じてしまうこともあるかもしれません。

ですが、私たち自身も「祝福されるに値すること」を何かした訳ではないにもかかわらず、神様から大いなる祝福を頂いた経験はないでしょうか。そんな時、私たちは神様に十分に感謝しているのでしょうか? 神様が望んでおられることは、災いではなく私たちに祝福して下さることです。そして、災いが起こった際には、私たちと共に嘆いて下さるお方です。神様は、揺るぎのない愛、憐れみ、そして祈りの答えを用意して下さっています。そして「祈りの答え」とは、必ずしも「私たちの願望が叶えられること」ではなく、「私たち自身が(霊的に)変えられること」である場合もあります。「自分自身を変えて下さる神様」に期待し、祈りの生活を続けて参りましょう。

讃美歌 310

祈り 神様、祈りが聞き入れられなかったと思ってしまう時がありますが、どうぞお赦し下さい。全てが御心のままなされることに感謝します。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スーザン・K・ギボニー
カリフォルニア州マリブ

9月26日(日)

共に居て下さる神様

聖書朗読 詩篇 30篇

愚か者は心の中で、「神はいない」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行っている。善を行う者はいない。 詩篇 14:1

とある作家は、申命記の中心テーマは「神様が配慮して下さることを覚える」ことだと指摘しました。イスラエルの民が「約束の地」に入る前、モーセは次のことを民に思い起こすよう言いました。すなわち、民をエジプトから連れ出し、荒野で民を養ってくださったのは主なる神であった、ということです。神は、イスラエルの民に食料を備え、敵を駆逐して下さり、民の罪に対する赦しも与えて下さいました。

私たちが生きる今日の世界でも、様々な問題・課題があります。しかし、そのような状況下でも、神様は変わることなく私たちに気にかけて、私たちの必要を満たして下さいます。衣食住といった生活の必要も、神様からの恵みなのです。神様が、私たちに気にかけて下さっているのです。

サムエルは神様の忠実さに感謝し、記念碑を建てました。(この記念碑の名である)「エベン・エゼル」という言葉の意味は「ここまで主が私たちを助けて下さった」です。アブラハムは、「イサクを捧げよ」という試練の中で祭壇を築いた場所を「アドナイ・イルエ」と呼び、その意味は「主が備えて下さる」です。神様は、気まぐれに私たちに気遣って下さるのではなく、常に変わることなく気にかけて下さっています。神様は「あなたを見放さず、あなたを見捨てない」と言われました。そしてさらに、「死の陰の谷を歩くことがあっても」神様は気にかけて下さっているのです。

敵(サタン)は、私たちがその逆(神様が私たちに気にかけて下さる)と信じるよう、私たちに惑わそうとします。ですから、サタンはヨブに「もし神様が気にかけていたなら、このようなことは起こらなかったはずだ」と言いました。神様は、私たちの人生が調子で行っている時にだけ共に居て下さるのではないのです。その時多くの人々が神様のことを忘れます。そして困難な状況にある時、私たちは(試練を通して)神様が共におられることに気付かされ、私たちは霊的に成長するのです。ある作家が書いていることでもあるのですが、「暗闇の中に居る時こそ、神様が光の中であなたに言われたことを思い起こしましょう」。

讃美歌 494

祈り 神様、いつも私たちのことを気にかけて下さることを感謝します。どのような状況でも共に居て下さることに感謝します。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ウィリアム・E・マクドナー
アーカンソー州マウメル